

宮城県美田園高等学校
令和5年度 第2回学校評議員会 記録

1 日時

令和6年3月3日(日) 13:00~14:50

2 会場

宮城県美田園高等学校 会議室

3 各評議員からの助言

【A評議員】

- ・科目登録生徒数が1,000名を超えるというのは、在籍生徒数が1,600名だった一高通信制時代にもなかったことである。
- ・その中で、アクセス科目の単位修得率(43.4%~52.8%)を見たときに、この態勢でよくこの数字を出しているなというのが率直な感想。一高通信制時代には、文部科学省の研究指定を受け、先生1名と東北大学院生4名でアクセス科目の前身となる科目の研究に取り組んだことがあった。対象生徒を20名に絞り、週4日登校させながら指導する方法でかなり手厚い個別指導を行った。当時と比べて、美田園高校が担うセーフティーネットとしての役割が大きくなる中で、アクセス科目の指導はよくやっている。県には、より充実した個別の対応ができる態勢構築のため、手厚い教員配置をお願いしたい。
- ・時間割の組み方、在籍期間の考え方について、1年目はアクセス科目+いくつかの科目に絞って学び方をしっかり身につけるようにし、4年で卒業するという履修モデルも有効ではないかと考える。
- ・情報発信について、成功事例を含めた発信も有効ではないか。中でも、学習支援室の態勢(特別支援のプロ+美田園教諭+学生)は他校に発信すべき有効な取組だろう。

【B評議員】

- ・学校評価の保護者評価が下がっている項目について、学校としてやることはやっているように思うが。

【校長】

- ・学校としてできること、できないことがあるので、何でもやるという態勢にはならないが、情報発信に課題があるのは事実ではないかと認識している。毎日登校する学校ではないこともあり、学校が何をどのようにやっているのか、生徒や保護者にとっては分かりにくいだろう。学校としてできることはまだあると考えている。

【B評議員】

- ・地域の災害特性について、名取川の堤防土台の地盤は浸透しやすい危険性があることが判明している。右岸部の強化工事がどの程度進んでいるのか、名取市に確認しておくといよいのではないか。

【C評議員】

- ・在籍生徒数が増加することで、学ぶ生徒の幅も広がっているのではないかとと思われる。学ぶ意欲がある生徒に対しては、美田園高校の様々な手立てが有効であるが、学習を中断している生徒も多くいる。それをどうしていくかというのは、なかなか厳しい問題。学校評価の設問4(基本的な生活習慣)、設問5(進路指導)、設問13(生徒の学校生活)の数字は、やっていないわけではないが浸透しにくい、効果が見えにくい、ということだろう。一定の成果は上げているが、難しい生徒もいる。そういう生徒をどう支援し

ていくのが課題である。高校へ来ること自体が適切なのかという生徒をどう支援していくか。大変難しいことだが、必要な人員配置を県に要求してもらいながら、そこを美田園高校が中心となって取り組み、情報を発信してもらいたい。特に中学校への発信について、教員の研修会等を活用することも含めて考えてほしい。中学校は小学校に比べて在籍期間が短いのに、高校という先があるため、とりあえず高校進学となるという点で難しさがある。美田園高校から小中学校に向けた情報発信は重要だ。

・先生方の中には、これは高校教員の仕事なのかという思いもあるかもしれないが、一方で、高校にしかできないこと、高校でしか学べないこともある。

【校長】

・適切な個別の支援を実現するためには、事前に情報を上げてもらうことも課題。不登校の場合は中学校で情報を持っていないこともあるため、不登校児童生徒への支援をしている外部の関係機関とのネットワーク作りに昨年度から取り組んでいる。今年度になって、学校が地域とつながる事例が出てきた。

・進路指導について、本校の特徴から、同じ生徒が継続してガイダンス等を受けるわけではなく、どうしても単発になりがち。その課題解決のために、学校設定教科「キャリア」を設定し、継続的な進路指導を可能にするための仕組み作りを進めている。中学校から進学してくる生徒数が増加していることから、今後は大学進学希望者の増加が見込まれるが、それに対応するための態勢作りにはもう少し時間がかかりそうである。

【D評議員】

・小学校、中学校における不登校生徒数は、名取市でも増加しており、大きな課題となっている。
・学校評価について、生徒・保護者・教員の三者が同じ傾向ならば改善も容易。例えば進路指導のように、三者の数字が離れている項目は改善も困難ではないかと感じている。

【校長】

・毎日登校する学校ではない分、学校が何をやっているのかが分かりにくい。いじめアンケートについても、今年度は昨年度よりも実施回数を増やしているが、そこが見えにくい。スクーリングに来ても学校の取組はやはり見えにくいだろう。いかにして複数のチャンネルを活用した情報発信をするか、そこがまだ足りないところだと考えている。

【A評議員】

・美田園では小さな口コミが有効では。本校に向いている生徒の資質についても発信できるとよいのでは。

【校長】

・今年度の学校説明会では、本校の厳しさを伝えることにも重点を置いて説明をしてきたが、肯定的な感想が多かった。厳しさを知ったうえで入学する生徒が増えれば違ってくるのではないかと。

【A評議員】

・高認験の活用について、全日制定時制とも共有ができればよいのでは。

【D評議員】

・本日の卒業式で「旅立ちの言葉」を述べた3名は、いずれも「自分で決めて、自分で計画して、自分で管理していく力がないと卒業できない」ということを話していた。美田園で育つ力を実感した。